

提案主題 授業力向上に向けた研修のあり方について  
 サブテーマ ～ミドルリーダーおよび教科部会・学年部の組織を生かす教頭の関わり方～  
 協議の柱 学力向上に向けて、ミドルリーダーおよび教科部会や学年部の組織を生かす教頭の関わり方について

提言者 大分市立滝尾中学校 古澤克也

## 1 質 疑 なし

## 2 協 議

- (1) 学力向上に向けての組織づくりについて
  - ・職員が多いと指導・助言・伝達が難しいが、教務主任や研究主任に的確な指導助言をしながら、研究主任が機能するように働きかけていくことが必要である。
- (2) 互見授業について
  - ・教員からは忙しいからという発言があるが、互見授業をする意味や意図を理解させることで実施は可能で授業がお互いを向上させるという意識を持たせなければならない。
- (3) 授業改善について
  - ・滝尾中学校のように徹底した指導、学校の重点目標に対する教職員のベクトル合わせが大切であり、授業では学校の実態から、協調学習やユニバーサルデザインの授業、アクティブラーニングなどを取り入れていくことが大切である。
- (4) 横と縦の連携について
  - ・学校規模の問題があるが、知徳体の3部会を作ってミドルリーダーが活躍する時間を設定することが大切であり、部長、主任という役を作っている学校がある。
  - ・小中連携の取り組みでは、中1ギャップ解消のため「家庭学習の手引」に基づいて、小中で連携して取り組んでいる学校がある。

## 3 指導助言

- ・滝尾中の発表では、組織を生かすための教頭の役割としてミドルリーダーの育成、授業力の向上、校長と研究主任等他の先生とのつながりの部分を教頭先生がよく果たしていると感じた。
- ・滝尾中では学力の目標がある程度達成されており、その上に新たな課題を見つけているところがすばらしい。その課題をどう取り組むかの手立てを考えていくともう一段階アップする。
- ・中学校は学年によって違いがあるので、学年に共通する課題や逆に学年に共通する強みを洗い出していくことが大事である。
- ・学年の問題点を共有する方法として担任が一定期間ローテーションで変わる方法を経験した。非常に有効な手段だったと思う。学校の中で情報を共有する手立ては大切である。
- ・教頭はまず地域、保護者、生徒、教師の実態把握をし、学校評価によって変えなければならないものを判断し、高いものはその学校の強みとして認識することが大切である。